

令和8年度 第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和8年7月30日（木）午前10時～12時00分

場所：北秋田市民ふれあいプラザ コムコム 多目的ホール

【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、加藤雄大、金野昌完、佐々木寛幸、佐藤真弓、高橋昌明、張了了、中嶋俊彦、三浦栄一 **〔座長〕**、山田浩二（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

木村加奈子、近藤大介、長崎しのぶ、益田光（五十音順、敬称略）

【部長等（説明員）】

三沢総務部長、西根財務部長、佐藤市民生活部長、鈴木健康福祉部長、小松産業部長、益子観光文化スポーツ部長、日下部建設部長、福島教育次長、松橋雅徳消防長

【事務局】

佐藤総合政策課長、堀内政策係長、菅原主査、桜庭主査

開会

【会議の概要】

0. 新委員の紹介

1. 座長あいさつ

2. 協議事項

（1）事務局説明（菅原主査）

■会議資料の確認及び会議の進め方について、事務局より次のとおり説明した。

- ・会議資料の確認及び会議の進め方について説明した。あわせて、一部の効果検証シートを差し替えたこと、並びに計画期間達成率の算出方法について再確認を行い、必要な修正は第2回検証会議までに整理する旨を説明した。

①当日資料1「目標値達成状況確認シート（令和7年度実績版）」について、事務局より次のとおり説明した。

- ・総合戦略について、目標達成項目の割合は全体で71.0%（49項目／69項目）であった。戦略別では、戦略1が66.7%、戦略2が100.0%、戦略3が63.6%、戦略4が71.9%であった。
- ・総合計画について、目標達成項目の割合は全体で66.7%（44項目／66項目）であった。基本理念別では、基本理念1が66.7%、基本理念2が83.3%、基本理念3が30.0%、基本理念4が66.7%、基本理念5が75.0%であった。
- ・なお、進捗・達成度は、達成率80%以上をA、60%以上80%未満をB、50%以上60%未満をC、50%未満をDとして整理している。

②当日資料2「北秋田市人口ビジョンの検証・総括」について、事務局より次のとおり説明した。

- ・総人口及び生産年齢人口は、市独自目標及び社人研推計を上回り、社会減についても第2次総合戦略策定時と比較して改善が見られた。一方で、人口減少そのものは継続している。
- ・年少人口は市独自目標を下回り、出生数も減少している。出生数の減少と死亡数の高止まりによる自然減が、人口減少の最大の要因となっている。
- ・今後は、自然減対策と社会減対策の両面から、若者定着、移住・定住、結婚・出産・子育て支援等の取組を進めるとともに、人口減少社会を前提とした持続可能な地域づくりとウェルビーイングの向上を図る必要がある。

(2) 第2期北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第2次北秋田市総合計画後期基本計画 効果検証シートについて

- ・効果検証シートについて、各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

《質疑応答》

- ・質疑は総合戦略と総合計画に区分し、総合戦略は戦略ごと、総合計画は基本理念ごとに議論を行った。

○総合戦略

「戦略1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり」

※検証シート No.1 ～ No.21

張委員)「主要園芸作物の見直しについて」

No.4について。主要6品目について、気候変動や災害リスク等も踏まえ、地域に適した品目への見直しや追加は可能か。

産業部長) 主要品目は毎年、JAや農業者等と協議しながら見直しを行っている。近年は災害や鳥獣被害等も踏まえ、今後も農業者の意見を聞きながら、予算とのバランスも考慮し、適切に検討していく。

「戦略2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進」

※検証シート No.22 ～ No.26

- ・質疑等なし

「戦略3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進」

※検証シート No.27 ～ No.37

張委員)「出生数を目標指標から除外した理由について」

No.27について。第3次総合計画では、なぜ出生数を目標指標から除外したのか。

健康福祉部長) 第2次総合戦略では出生数を目標としていたが、行政が出生数を目標として掲げること、市民や当事者に様々な受け止め方をされる可能性があることや、多様な生き方への配慮が必要であることから、第3次総合計画では目標指標から除外した。一方で、産み

たい方が安心して子どもを産み育てられる環境づくりは引き続き推進していく。

「戦略4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成」

※検証シート No. 38 ～ No. 69

中嶋委員)「学校生活の満足度について」

No. 42 について。県学習状況調査では、学力は県平均を上回っている一方で、「学校が楽しい」で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は県平均を下回っている。勉強へのプレッシャーなどが影響している可能性も考えられることから、学校生活の満足度についても課題の一つとして捉え、今後も分析・検討していく必要がある。

教育次長)「学校が楽しい」で「当てはまる」と回答した割合は県平均をやや下回っているものの、年々改善傾向にあり、県平均に近い水準となっている。各学校では、学校生活サポート員を年々拡充し、安心して学校生活を送れる環境づくりに取り組んでいるところであり、引き続き、こうした取組を継続していきたい。

佐藤委員)「公営住宅のバリアフリー化と入居者構成について」

No. 52 について。ケアマネジャーとして高齢者に公営住宅を勧める際は、間取りだけでなく建物全体の使いやすさも判断材料としている。過去には、エレベーターがあってもストレッチャーが入らず階段で搬送した事例もあり、重度の方への紹介は慎重になる。バリアフリーやユニバーサルデザインの観点から安全性を高めることで、高齢者だけでなく幅広い世代が利用しやすい住宅になるのではないかと。また、建築年数や公営住宅の入居世帯構成、年齢層などを分析することで、課題がより明確になるのではないかと。

建設部長) 建替事業においては、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した整備を進めていく予定である。既存住宅についても、これまでも手すりの設置など部分的なバリアフリー化を実施してきた。また、公営住宅の入居者構成については、低所得者向け住宅であることから、若年世帯や長期間居住している高齢者など様々な世帯が入居している。建築年数や入居者構成などの詳細なデータは手元にないため、必要があれば整理のうえ、情報提供していきたい。

○総合計画

「基本理念1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり」

※検証シート No. 70 ～ No. 78

佐藤委員)「将来を見据えた医療提供体制について」

No. 70 について。医師確保が課題となっている中、診療所や個人医院の医師の高齢化が進んでおり、今後は医療機関の減少も想定される。将来を見据えた医療提供体制について、オンライン診療の導入なども含め、今から検討を進める必要がある。

健康福祉部長) 委員ご指摘のとおり、鷹巣医師団においても医師の高齢化が進んでおり、夜間当番医の負担軽減に向けた調整を行っている。また、開業医への支援として、開業支援補助金の

拡充や医療機器の更新支援などに取り組んでいるものの、新規開業や医師確保は依然として厳しい状況にある。今後は、広域的な地域医療連携を進めるとともに、医療 DX や診療所運営も含め、持続可能な医療提供体制の確保に取り組んでいきたい。

張委員）「市民病院の産婦人科診療と妊産婦支援について」

同じく No. 70 について。市民病院から産婦人科がなくなったことについて、市民からの問い合わせも多いと思われるが、現在どのような対応や支援を行っているのか。

健康福祉部長）市民病院では令和 7 年 12 月に産婦人科の常勤医師が不在となったが、非常勤医師による診療を継続し、令和 8 年 4 月からは週 2 回の診療体制を確保している。妊婦健診などは可能な範囲で対応しているが、分娩については近隣市町村の医療機関で受け入れていただいている。また、妊産婦の負担軽減を図るため、「北秋田出産まるっと応援事業」を実施し、妊産婦通院サポート事業、妊産婦あんしんタクシー事業、待機宿泊支援などを行っている。

「基本理念 2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」

※検証シート No. 79 ～ No. 90

・質疑等なし

「基本理念 3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり」

※検証シート No. 91 ～ No. 100

・質疑等なし

「基本理念 4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」

※検証シート No. 101 ～ No. 115

・質疑等なし

「基本理念 5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」

※検証シート No. 116 ～ No. 135

張委員）「市役所職員間の情報共有と連携について」

No. 130 について。市民窓口では親切に対応していただいているが、市民窓口以外では対応に不満を感じることがあり、周囲からも同様の声を聞いている。人事異動等により、職員間で情報共有が十分に行われていない場面も見受けられ、対応の遅れや連携不足を感じることがあるため、職員間の連携強化に努めていただきたい。

総務部長）人事異動の際には職員間で事務の引継ぎを行っているが、情報共有が十分でない部分もあったかもしれない。今後も職員間での情報共有を徹底し、適切な対応に努めていきたい。

その他全体

中嶋委員）「異常気象や自然災害を踏まえたリスク管理について」※意見のみ

昨年を象徴する漢字として「雪」と「熊」が挙げられるが、今年は酷暑により40℃を

超えるような異常気象も発生している。これらを一時的な出来事と捉えるのではなく、今後は何が起こるか分からないことを前提に、リスク管理の視点を取り入れた施策を検討していく必要がある。異常気象や自然災害が常態化していることを踏まえ、将来を見据えた取組を進めていただきたい。以上、全体を通した意見として述べさせていただいた。

佐々木委員）「コンパクトシティの考え方について」

中嶋委員の意見にも関連するが、今後のまちづくりにおいて、コンパクトシティの考え方についてどのように検討しているのか。行政コストの観点も踏まえ、個別施策ではなく全体的な考え方として伺いたい。

建設部長）都市計画マスタープランの策定を進めており、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方を基本としている。地域ごとに拠点を形成し、公共交通などのネットワークで結ぶまちづくりを理念として位置付け、検討を進めている。

伊藤委員）「地域づくりとウェルビーイングの考え方について」※意見のみ

仕事柄、まちづくりや地域づくりに関する講演を行う機会が増え、改めて「まち・ひと・しごと」とは何かを考えるようになった。明治大学の小田切教授は、「まち・ひと・しごと」をあえてひらがなで表記していることの意義について述べており、その概念について改めて考えるきっかけとなった。個人的には、「まちづくり」と「地域づくり」は分けて考えるべきであり、両輪として進めていく必要があると考えている。地域の中では、発展する地域と衰退する地域が生じることも踏まえ、地域づくりの考え方を改めて整理・再定義していくことが重要ではないか。

また、ウェルビーイングについて考える機会もあったが、「ウェル」と「ビーイング」を分けて捉え、一人ひとりの幸福度をより細かく把握することで、その人に必要なウェルビーイング施策を届けられるのではないかと考えている。以上、全体を通した意見として述べさせていただいた。

（３）その他

- ・事務局より次回日程及び内容について説明した。

閉会

- ・以上をもって、令和８年度第１回北秋田市総合戦略検証会議を閉会した。